

## ○ 協働事業の概要

記入年月日 平成 29 年 3 月 31 日

事業名	電力自由化をきっかけに市民・家庭が主役のエネルギーシフトをすすめる事業
団体名	NPO 法人こだいらソーラー
担当課名	環境部 環境政策課
事業期間	平成 28 年 4 月 8 日～平成 29 年 3 月 31 日

いきいき協働事業の自己評価について、ご記入ください。

① 地域の課題が解決されましたか。(計画時に設定した課題がどの程度解決されましたか。対象者がどう変わりましたか。)

5 月 1 日の電力自由化セミナーを皮切りに、発電所見学会、ソーラークッカー工作教室、ECOひろばと市民への啓発の機会を通じて、再生可能エネルギーの電源構成の高い新電力会社の見分け方等の啓発を行った。多くの市民が経済性に注目を置きがちなか、クリーンで持続可能な再生可能エネルギーへの関心を持つ人も出てきた。中には、再生可能エネルギーの電源構成が高い新電力会社や電力の地産地消のために発電所が小平市から近い会社に興味を示す人もいた。

また、報告リーフレット(600部)を作成し、継続的に市民への啓発活動を進める予定である。

②自らの団体の長所が、発揮出来ましたか。(市民の共感を引き出し、行政や企業では出来ない良質な成果が得られましたか。市・団体が単独で実施するより効果的・効率的に事業展開できましたか。)

こだいらソーラーの構成員が小平市民であり、幅広く地域活動を行っている者が多いことから、市内の他団体との交流もあり、市民レベルでの市内での情報拡散に役立った。また、他団体との交流に伴い、こだいらソーラーの活動への理解と連携等が模索され、今後の活動の広がりが見えてきた。ソーラークッカー工作教室では、減災の観点からソーラークッカーに着目された自治会長の方の参加もあった。

③協働の姿勢が図られましたか。(互いの組織としての理念や使命、組織運営の考え方など相互理解が図られたか。対等関係を維持するために適切な協議や意見交換の機会を設けましたか。相手方と十分な情報の共有が図られましたか。)

いきいき協働事業は今回で3年連続となり、相互の理解、連絡、連携等については、担当者同士の意思の疎通も良好で、支障なく事業を進めることができた。市民団体と行政の連携としては、どちらかに偏ることもなく、それぞれの役割を果たして、市民への働きかけができたと考える。当初に1年間の予定を協議し、イベントの都度、ちらし・ポスターや市報への掲載文の協議、当日の見学、完了報告書の提出等お互いに連絡を取って、一連のイベント等を実施することができた。

④改善提案がありますか。

今年度も、展示や講演だけでなく、参加者に自ら体験していただく、見学会や工作教室、映像の視聴を取り入れ、参加者の記憶に残るような工夫をした。省エネ・創エネの継続的な実践と再生可能エネルギーの普及拡大につなげるため、今回の事業内容についてリーフレットを作成し広く配布する。

ソーラークッカー工作教室のような体験型の啓発イベントにおいては、太陽エネルギー由来であるため、天候に左右されてしまう欠点があり、その際の次善の策として好天時の映像を用意し、疑似体験してもらう等の工夫を検討する必要がある。

工作教室において、作成したものをその後どの程度・どのように日々の生活で活用しているかを、追跡調査すべく何らかの仕組み作りが必要だと痛感した。定期的なアンケート調査やヒアリングの実現可能性を検討したい。

いきいき協働事業自体について、市民生活の解決のため、横断的な市民団体の連携を行い様々な切り口から働きかける仕組み作りを検討してはどうか。(縦割り行政の補完)

また、息の永い事業にして、検証しつつよりレベルの高い試行を目指すことも検討しては如何かと思う。

自由記載欄